

第28回那須塩原市子ども・子育て会議 会議録【要旨】

- ・日 時 令和3(2021)年3月15日(月)午後6時30分～7時10分
- ・場 所 西那須野庁舎301～303会議室
- ・出席者 浅香会長、戸田副会長、柴田委員、関委員、長嶋委員、菱沼委員、佐藤委員、大島委員、秋間委員、佐久間委員、松浦委員、後藤委員、白澤委員、星野委員、西田委員、山本委員、八木澤委員、稲村委員、佐藤委員(計19名)
- ・事務局 後藤部長、織田課長、福田課長、菊池所長、亀田補佐、渋井補佐、染谷係長、平田係長、安藤副主幹、長岡係長、鍋島主査、小川主任、花岡主事、綾部主事(計14名)

・議 題

(1)りとりぐっ保育園(小規模保育事業)の認可及び利用定員の設定について

→資料1に基づき説明

◎委員からの意見

(浅香会長) なべかけ保育園を連携施設として設定しているが、十分な調整がされているのか。

(事務局) 連携内容としては、卒園児の受入れや保育内容への支援(保育の適切な提供に必要な相談・助言)や健康診断の受診、代替保育の提供などを予定しているが、現在の家庭的保育事業でもなべかけ保育園が連携施設となっており、同じ内容で連携していくため、問題ないと考えている。

(白澤委員) 少子化が見込まれる中で、当該認可が他施設に及ぼす影響をどのように考えているのか。また、将来の各施設の定員調整について、市としてはどのように考えているのか。

(事務局) 令和2年10月時点の調査においては、黒磯地区においても待機児童が発生しているため、当該施設の認可は待機児童解消に寄与するものと考えている。また、定員調整については、公立保育園の役割の一つではないかと考えている。次年度、公立保育園在り方検討会において、公立保育園の役割について検討を行うことになるため、その中でも検討していく。

(2)令和3年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の変更について

→資料2に基づき説明

◎委員からの意見：特になし。

(3)その他

◆令和3年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の入園申込状況について

→資料3に基づき説明

◎委員からの意見

(佐久間委員) 0歳児の入園について、4月以降に入園予定の園児で定員は埋まっているが、現状4月になってすぐに入園するわけではない。園としては4月に受入体制を整えているため、何の措置費もないまま職員を雇用しなければならず、負担も大きい
ため改善願いたい。

(事務局) 入園選考の見直し等も含め、検討させていただきたい。

(浅香会長) 現場の声として非常に重要な部分となる。次回の子ども・子育て会議において、検討状況の報告をお願いしたい。

◆「那須塩原市子ども・子育て夢基金」助成事業募集概要(案)について

→資料4に基づき説明

◎委員からの意見：特になし。

◆子ども家庭総合支援拠点の設置について

◎委員からの意見

(戸田副会長) 臨床心理士は常勤となるのか。

(事務局) 常勤ではなく年間36回(1回6時間)となる。本市の教育カウンセラーになっている方を予定している。

(戸田副会長) アドバイザーはどのような方がなるのか。

(事務局) 前県北児童相談所長の直井氏を予定している。現在もお願いしているが、回数を18回から36回(1回3.5時間)に倍増する。

(戸田副会長) 要保護児童対策調整機関に認定こども園が含まれていないが。

(事務局) 国が作成した資料で記載はないが、認定こども園も含まれる。

(浅香会長) 直近の厚生労働省の虐待死亡事例の検討会によると、児童相談所や市などの関係機関のアクセスがあったにも関わらず救えなかった命もある。経済的な部分以外でも孤立や心の問題などが大切な支援要素となってくるので充実させてもらいたい。また、必要に応じて具体的な取組等について、子ども・子育て会議で報告をいただきたい。

・その他

(事務局) 来年度は委員改選となる。4月中に所属団体あてに委員推薦依頼を送付させていただくので対応願いたい。

以上